

スマートフォンで出来る簡易トリアージについて

福岡市消防局（福岡県） 森本 新平
高松 浩平
矢野 淳志

多数傷病者が発生する災害においては、刻々と変化する現場状況を混乱することなく速やかに把握し、トリアージにより緊急度の高い傷病者を選別し、その傷病者を効率良く迅速に医療機関に搬送することが最重要課題であり、これを達成するためには「組織的な活動の構築」が必要であると考えている。毎年、訓練を重ねていくが様々な要因（補足1）が重なり連携がうまくいかず、連携の強化を図るなど日々訓練を行っている。昨今ではタブレットを使用したトリアージシステムがあり、導入には約450万円の予算が必要となりメンテナンス等を考慮しても多額な予算を必要とし、導入に慎重な組織もある。

各消防本部で組織的な活動の構築のため活動要領を策定し、それに基づいた様々な想定訓練も実施している。しかし、指揮命令系統及び情報収集体制の徹底・確立と救急隊による傷病者の迅速な搬送との両立は常に付きまとう課題である。

そこで本論文では、上記の課題を解決するため、「スマートフォンで出来る簡易トリアージ」について提案するものである。これは各隊が使用しているスマートフォン（以下、スマホという。）にアプリのインストールを行い、アプリ内で傷病者情報の入力、共有、隊管理を行うものである。これにより「どの傷病者を」「どこの隊が」「どの病院に搬送を行うのか」が明確となり、遅滞なく傷病者を搬送出来ると考える。

1 使用するアプリについて

使用するアプリの「スプレッドシート」とは、無料で使用できるGoogle社が提供している表計算ソフトである。操作・入力方法はExcel（Microsoft社）とほぼ同じであるが、最大の特徴は、インターネットを介して「最大100人」が「同時に」このファイルに情報を入力する

ことができ、入力中も他の端末から入力された内容が「リアルタイムで瞬時に反映していく」という点である。また、このファイルは最大で200人が閲覧することが可能である。

ただし、このスプレッドシートは誰でも操作・閲覧できるわけではなく、メール等によりファイルを共有された端末しか操作・閲覧することはできない。他者がデータの保存してあるURL（英数50桁以上）を知り、入力を行っても許可がなければエラー表示となり、機密は守られている。

この特性を活かして、傷病者情報・病院情報の共有を容易にして、傷病者の迅速な搬送を可能にすることを目指したものである。（補足2）

このアプリを使用して作成したデータを指令センター、指揮隊及び各救急隊を招待した状態で複数のデータを準備し（集団救急1、2、3など）、同時に多数傷病事案が発生しても対応できるよう準備しておく。

2 使用するデータについて

使用するデータには、複数のシートがあり、シートは指令センター・各隊がそれぞれ見やすく容易に入力できるように作成している。シート名、使用隊、入力要領について説明を行う。

- ・指揮・センター用：指令センターが指令情報・隊情報の入力を行う。
- ・隊情報：出動救急隊が隊情報の入力を行う。
- ・現場救急：現場・一時救出場所等で先着隊が入力を行う。
- ・救護所救急：救護所等で救急隊が入力を行う。（先着救急隊が入力可）
- ・経過観察：救護所で救急隊が入力を行う。
- ・救急指揮：救急指揮者が入力する。必要最小限の情報を集約している。
- ・搬送隊・搬送表：搬送救急隊が入力を行う。
- ・報道発表：事故概要の詳細以外の情報は、救急隊が入力完了することで集約され、指揮隊が報道発表時に使用する。

その他、集約・基本情報入力として

- ・入力：隊情報・バイタル及び点数など基本情報を入力する。

以上が、各シートを使用し、各隊が各場所で行うことある。（補足3）

各シートについて詳細に説明を行う。

① 指令センターについて

指令センターは、多数傷病者事案が発生した場合、指令と同時に使用するデータを指定する。その後、指定したデータの「指揮・センター用」に災害日時、場所、通報内容、出動救急隊及び病院の受け入れ可能床数の入力を行う。床数の確保は、のちに先着救急隊が行う傷病程度の数を確認し、病院の追加、床数の確保を行う。無線を使用することなく病院情報の共有が指揮隊・救急隊に行える。(補足4)

② 先着救急隊（現場・一時救出場所）について

救急隊は出動途上において「隊情報」シートに事前に自隊の情報を入力する。入力内容は出動隊の自隊のセルに観察者名、役職（救命士等）を入力する。これを入力することでトリアージタグに隊・氏名など同じことを多数傷病者数の記載していた手間が隊にチェックするだけとなり、時間の省略に繋がる。

先着救急隊員は、2名ペア若しくは3名で活動を行い、1名は傷病者の観察を行い、他の隊員でトリアージタグの記載、スマホで「現場救急」シートの入力を行う。先着隊は、主に人数と傷病程度の把握を行う。入力し易いようにチェックボックスとなっている。(補足5) データの傷病者 NO をトリアージタグの NO に記入し観察した傷病者に身に着ける。これらの入力を行うことで傷病者の数、負傷程度が判明することで災害の規模の把握が行え、指揮者は救急隊の増隊、病院の確保床数の判断の基準となる。

③ 後着救急隊（救護所）について

救護所内で活動する救急隊をまとめて後着救急隊とする。後着の救急隊は主に傷病者のバイタル観察、入力を行う。使うシートは「救護所救急」で、各傷病者のバイタル、全身観察の結果を入力する。救急隊員の活動は2名ペアで、傷病者の観察者とスマホ入力者に分かれる。スマホ入力者はシート内の緊急度が高い傷病者（赤タグ）から入力を行い、観察する傷病者 NO を観察者に伝える。緊急度が高い傷病者は先着救急隊が入力した傷病程度の入力で判明しており、データ内でも傷病程度で色分けし見やすい仕様になっている。同一 NO の傷病者を観察し、スマホに観察した結果を入力する。バイタル、負傷程度にはそれぞれ点数が振り分けられており、

緊急度が高いほど点数が高くなる。(補足6) 点数化することで同じ傷病程度でも緊急度の順位が判明し、搬送の順位が決定される。

また、救護所の傷病者の観察が完了後に、傷病者の酸素投与などの処置を実施し、経過観察を実施する。経過観察にはシート「経過観察」を使用する。経過観察シートは、処置状況の入力を行う。観察の結果、傷病者の様態が変化(悪化・改善)した場合は、傷病程度を変更し、その理由にチェックする。軽症者等が病院への搬送を拒否した場合、不搬送のリストにチェックを入れると軽症から不搬送へ変更される。これにより傷病者の詳細なバイタル変化の記載が出来るようになる。指揮隊員が行う全傷病者数と搬送者数のズレが解消されると思われる。(補足7)

④ 救急指揮者について

救急指揮者は、シートの「救急指揮」を使用する。このシートには傷病者の数・程度、病院情報・床数と出動救急隊数がどこで活動(トリアージ場所)しているかわかる。救急指揮者は先着救急隊のトリアージ等の結果から、黒・赤タグの数が判明するので、救急隊員に活動方針を指示する。指示する項目は、「黒優先」「赤優先。後、黒搬送」「黒搬送なし」と指示を分けた。救急指揮者はマニュアルや消防力と傷病者を考慮し指示を決定する。これにより、傷病者への各救急隊の対応が決定する。もちろん無線で指示しても可能であるが、この指示の決定で傷病者に加点される仕様となっており、指示した傷病程度が高順位となり搬送が優先される。(補足8)

⑤ 搬送救急隊について

搬送救急隊は、シートの「搬送隊」を使用する。救護所救急シートと救急指揮者の指示により緊急度が高い傷病者が高順位となっている。搬送救急隊は到着後、高順位の傷病者と接触し、処置を引き継ぎ、搬送を行う。入力は、搬送する傷病者 NO に搬送隊と搬送先病院を選択する。この入力は、搬送隊でも他の指示する隊であっても可能である。(補足9)

傷病者の情報はシート「搬送表」に各救急隊が入力した情報がまとめられている。スプレッドシートは印刷も可能なので、搬送表をスマホから印刷を行い、搬送先の病院へ渡す。搬送表内には傷病者の搬送中のバイタルや個人情報を入力することも出来る仕様になっているが、使用する消防局

に応じて入力の方針は決定できるよう任意としている。(補足10)

⑥ 最高指揮者について

最高指揮者は、災害現場の指揮活動の他に、緊急度の高い傷病者数と救急車数の把握が行えるので状況により指令センターに増隊要請行う。現場での活動終了時に報道発表を行い、シート「報道発表」を使用する。報道に向けて発表する情報が自動でまとめられており、リアルタイムで情報も更新されるため中間発表にも使用できる。(補足11)

3 悪条件・多様化する災害について

現在、使用しているトリアージタグは記載する内容が多く書きづらく読みづらく、悪天候時には更に悪化する。また血液などの汚損などもあるため情報が分かりづらい場合がある。本データはトリアージタグの情報とほぼ同一であり(補足12)、トリアージタグはNOと目視出来る傷病程度があれば上記状況下でも見やすく、わかりやすい。

また、列車事故などで傷病者が現場周囲に点在し、線路などで動線が遮断され、救護所などが複数になる場合がある。この場合、複数の救護所からの情報の統一が難しく、無線で傷病者の状態・搬送病院などを伝え、指揮隊員・救急指揮者はその情報収集して統制を図っているが時間をかなり要するなど困難な状況がある。本データを使用すれば例え離れた場所でも全体の傷病者の点数化により優先順位が判明し、搬送病院を無線で入れる必要がなく情報統制もスムーズに図れる。

多数傷病者事案は、交通事故の他にテロや食中毒など様々な状況が存在する。この場合でも、考えられる傷病程度と点数を事前に用意しておき、状況にあったデータを入れ替える(シート「入力」で変更可能)ことで、さまざまな災害であっても対応可能である。

4 メリット・デメリットについて

メリットについて

- ・スマホのみで予算を必要とせず、更新作業も容易である。
- ・他のスマホがあれば入力、閲覧の拡張が容易に行える。

- ・ トリアージタグと本データの入力事項はほぼ同じで、搬送順位も入力次第では早期に判明するので従来のやり方と比較して、およそ半分の時間で全傷病者の搬送が完了となる。
 - ・ 傷病者を順位化しているので緊急度の高い傷病者を迷わず搬送できる。
 - ・ 先着救急隊は、全傷病者の傷病程度の入力が完了後、現場（一時救出場所）で次シート「救護所救急」の入力を行うこともできるので時間の短縮が図れる。
 - ・ 現行はトリアージを行った隊・氏名をトリアージタグに同じことを記載する。本データは、隊の基本データを入力しておけばチェックのみで完了するため、記載の手間がかからない。
 - ・ 搬送救急隊は「どこの隊が・誰を・どこの病院に運べばいいか」の情報が容易に入手でき、各々の判断で傷病者の搬送が行える。
 - ・ 指揮隊員は情報収集することなく、傷病者情報が入手できる。
 - ・ データをコピーすれば、隊員のスマホを使用した訓練ができる。
 - ・ 救急指揮者は現場に到着しなくても状況がわかり指示が出しやすい。
 - ・ 悪条件・さまざまな災害にも対応できる。
 - ・ トリアージタグは救護所を出る際は、個人情報などを記載し、指揮隊員に渡し搬送を行っているが、本データは後でも入力できるため未記載でも病院搬送までに入力されていれば情報の共有が可能である。（※個人情報の入力を許可する場合に限る。）
- 以上のことから、文頭で挙げた様々な要因がほぼ解消されると思われる。

デメリットについて

- ・ ネットが繋がる場所でないと使用できない。
- ・ 傷病程度の点数が難しく、例えば、頻呼吸と頭部裂創とを点数で比較するなど難しいと考える。あくまで傷病者同士の比較するための点数であるが、傷病程度の各点数にあっては、検証段階である。
- ・ 情報がインターネット上なので情報漏洩の危険があり、個人情報（名前・住所等）などは任意としているので、使用する消防本部の判断に委ねる。任意で入力する個人情報以外では、個人を特定する情報なく、法

に抵触することはない。

- アプリの問題としてドロップダウンリスト選択時に他隊が入力を完了した場合、選択画面に戻される可能性がある。これは先着隊など急を要する作業はチェックリストを使用している。その他のシートにもチェックリストを多く使用し容易に入力できるようにしているので解決可能である。
- 1小隊にスマホが1台のため、活動人員が増えても入力するスマホの数が限られている。しかし、アプリがインストールされたスマホであれば、招待することで入力できるスマホを増やすことが可能である。

5 終わりに

以上が、「スマートフォンで出来る簡易トリアージ」についての提案である。緊急度の高い傷病者を早急に搬送するために、情報共有システムと傷病者の順位の設定が可能となり、傷病者の現場滞在が大幅に短縮できる。指揮隊は災害活動面、救急隊の活動補助に集中ができ、救急隊は情報共有が行え、搬送が容易となり、さまざまな要因も解消する。スマホのみで劇的に改善が図れる本提案が、多数傷病者事案で苦慮している消防局で使用され、災害発生時にお役に立てればと思う。結果、傷病者の早期搬送に繋がり人命救助の助力につながればと切に思う。

補足1 さまざまな要因

指揮隊、救急隊等の活動検討の事項を列挙する。(近年の総合訓練等から抜粋)

指揮隊：現場本部、救護所の各ポジションでの初動時の業務量が多い。

：無線機の不具合等で情報収集がうまくいかなかった。

：救急隊の管理がうまくいかなかった。

：重傷者が救護所から出るまで遅く、2次トリアージに時間を要した。

：救急隊が搬送先病院を聞いてくるなど、救護所に業務が集中した。

：活動指示を受けた隊と活動指示待ちの隊が混在した。

：要救助者（赤タグ）の情報が錯綜して、8名か10名との情報があり、どの情報が正しいのか判断が出来なかった。

：指揮者、救護所、現場本部の連絡をしっかりとやるべきだった。

救急隊：先行（先着）救急隊が不足していた。

：次々と運び込まれる傷病者に管理が追い付いておらず、搬送隊を待たせる時間が長かった。

：搬送順位の決定に苦勞していた。

：無線が錯綜していた。解決策として伝達係の設けてはどうか。

：救急担当指揮者が情報収集に動かないといけない場面があった。

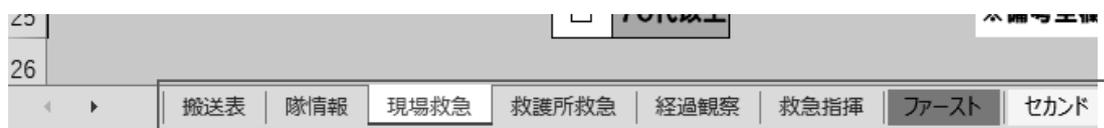
補足2 Google スプレッドシートについて

Google スプレッドシートの利用に際して必要なものは「Google アカウント」だけで使用ができるため、メールアドレス等があればアカウントが作成でき、誰でも利用することができる。保存容量は15ギガまで無料で使用することができ、作成した本データは0.3ギガ程度である。互換性もスマホであればほぼ問題なく使用できる。

スプレッドシートのデータはインターネット上に保存され、そのURLの文字数は50文字以上の不規則英数等で作成され、例えURLが合致しても、本データのホストが許可していなければ編集・閲覧することはできない。

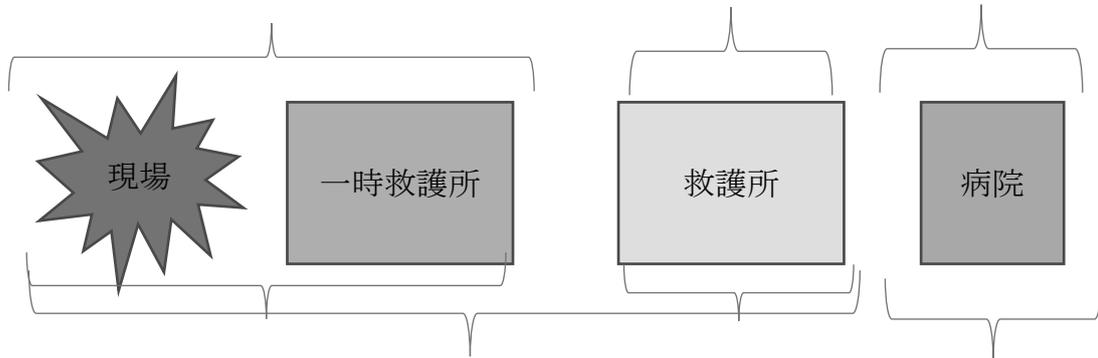
スマホであれば、インストール可能で処理能力の差があるくらいである。使用するパケットは検証段階であるが30分使用でパケット300～400メガを消費する。

補足3 シート一覧・使用シートと使用隊の状況



各シートはExcelと同様、下段に配置している。

使用隊 先着救急隊 後着救急隊 搬送救急隊



使用シート： 現場救急 救護所救急 経過観察
搬送表
搬送隊

補足4 指令センターについて

発生日時	令和	4年	6月	7日
覚知時間（：なし）	21時37分	指令時間		21時38分
発生場所	〇〇区△駅前4丁目1番1号			
事故概要				
バスと普通車の交通事故。バス内に負傷者多数いるもの。普通車と歩行者が接触、1名負傷したもの。				
現場負傷者数				合計
3	4	5	6	18
確保床数	6	11	13	
病院受入れ可能状況				出動救急隊
病院名	重傷	中等症	軽症	救急①
1 A病院	3			救急②
2 B病院		3	3	救急③
3 C病院		3		救急④
4 D病院			10	救急⑤
5 E病院	3	5		救急⑥
6				

日時等の入力を行う。搬送表シートや報道発表シートに反映される。

上段が程度ごとの全傷病者情報
下段が病院確保床数状況
現場救急隊の入力で傷病者数の把握が行える。状況に応じて床数確保を行う。

出動救急隊を入力する。

確保した病院の床数を入力する。搬送救急隊、救急指揮者及び最高指揮者が参考にする。

補足5 先着救急隊について

隊情報(必須)		場所	ファースト開始時間		～	終了時間	
1	救急①	現場	10	時	5	分	10
2	救急②	集積所	10	時	8	分	10
3				時		分	
4				時		分	

救急指揮者指示		赤優先。後。黒搬送				
N	U	性別	年齢	傷病程度	備考	
1		<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 10未満	<input type="checkbox"/> 緑タッグ	<input type="checkbox"/> 歩行者	
		<input type="checkbox"/> 女性	<input type="checkbox"/> 10代	<input type="checkbox"/> 黄タッグ	<input type="checkbox"/> 運転手	
	1st トリアージ隊	<input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 赤タッグ	<input type="checkbox"/> 現場	
<input type="checkbox"/>	救急①		<input type="checkbox"/> 30代	<input checked="" type="checkbox"/> 黒タッグ	救護所②	
<input type="checkbox"/>	救急②		<input type="checkbox"/> 40代			
<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> 50代			
<input type="checkbox"/>	0		<input type="checkbox"/> 60代			
			<input type="checkbox"/> 70代以上		※備考空欄OK	

活動する救急隊、場所、時間（開始～終了）の情報を入力する。

救急指揮者の指示が表示される。

傷病者1名に対しての入力は活動隊・性別・年齢・傷病程度・備考となっている。チェックリストとなっているので入力に時間を要さない。

補足6 後着救急隊について

隊情報(必須)		救急指揮者指示		赤優先。後。黒搬送	
1	救急③				
2	救急④				
3					
4					
5					
6	NO	JCS	気道	呼吸	循環
7	1	<input type="checkbox"/> Ⅲ行	<input type="checkbox"/> 異常なし	<input type="checkbox"/> 正常値	<input type="checkbox"/> 正常値
8		<input type="checkbox"/> 300	<input type="checkbox"/> 気道閉塞	<input type="checkbox"/> 頻呼吸	<input type="checkbox"/> 頻脈
9	男性	<input type="checkbox"/> 200	<input type="checkbox"/> 舌根沈下	<input type="checkbox"/> 徐呼吸	<input type="checkbox"/> 徐脈
10	20代	<input type="checkbox"/> 100	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 死戦期	<input type="checkbox"/> 脈停止
11	帯症	<input type="checkbox"/> Ⅱ行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 呼吸停止	
12	2nd 隊情報	<input type="checkbox"/> 30			
13	<input type="checkbox"/> 救急③	<input type="checkbox"/> 20			
14	<input type="checkbox"/> 救急④	<input type="checkbox"/> 10			
15	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> Ⅰ行			
16	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 清明			
17	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 蘇生不可			
18	観察時間				

「現場救急」の情報が反映する。

救急指揮者の指示が表示される。

観察隊にチェックする。

意識レベル・脈拍・呼吸等の当てはまる症状にチェックする。

補足9 搬送救急隊について

搬送隊	搬送病院	NO	順位	性別	バイタル	負傷等	傷病程度
指揮者 指示		黒	赤	黄	緑	不搬	合計
赤優先。後、黒搬送		0	5	8	2	0	15
搬送隊	搬送病院	NO	順位	性別	バイタル	負傷等	傷病程度
	E病院	1	1	男性	済	済	重症
		2	7	女性	済	済	軽症
	A病院	3	6	男性	済	済	中等症
	E病院	4	5	女性	済	済	重症
		5	11	男性	済	済	中等症
		6	9	女性	済	済	中等症
	E病院	7	4	男性	済	済	重症
		8	12	女性	済	済	中等症
		9	9	男性	済	済	中等症
救急④	A病院	10	2	女性	済	済	重症
		11	12	男性	済	済	中等症
		12	15	女性	済	済	軽症
		13	14	男性	済	済	中等症
救急⑤	A病院	14	3	女性	済	済	重症
		15	8	男性	済	済	中等症

搬送順位を参考に搬送先病院、搬送隊の入力を行う。観察の完了状態は点数の状態により把握できる。

補足10 搬送表について

個人情報の入力には任意。印刷し書き込むことも可能。搬送先病院へトリアージタグと合わせて渡す。

病院到着後に搬送隊が入力し、完了する。

傷病者搬送票

傷病者情報		指令内容			
指令時間	令和4年6月7日 10時00分	バスと普通車の交通事故。バス内に負傷者多数いるもの。普通車と歩行者が接触、1名負傷したもの。			
発生場所	〇〇区△駅前4丁目1番1号				
隊番号		ファーストトリアージ	現場		
NO・区分	1 黒タグ	接触時間	10:05	程度	黒タグ
氏名		備考			
年齢・性別	10代 男性	5		救護所	
生年月日		観察時間	10:17	呼吸	呼吸停止
住所 (下段は丁番)		意識 (JCS)	III	瞳孔	気道閉塞
電話番号		顔色	正常	循環	正常値
車内観察結果 (病院搬送時)		経脈学的評価	該当なし	皮膚	冷感
意識 (JCS)		外傷	断端出血	言語障害	顔面出血
S P O 2	%	上肢骨折	全骨折		
脈拍	回/分	処置内容			
血圧		処置なし	全身固定		
心電図		CPR	止血	○	
瞳孔	左 右	酸素投与	アドレナリン		
体温	℃	輸液	0		
処置・状態変化		観察なし	程度変更		
病院情報		変更理由			
搬送先	E病院 病院	1st実地隊	救急①	田中③隊救急士	
病院着時間		2st実地隊	救急②	田中③隊救急士	
確定診断		観察実地隊	救急③	田中③隊救急士	
程度		搬送隊	0		

指令センターの入力内容。

現場救急の入力内容

救護所救急の入力内容

経過観察の入力内容

各シートの担当者

※各救急隊にプリンターやスマホと繋ぐ配線がない場合は、指揮隊にプリンターを準備し、搬送先決定時に搬送救急隊に印刷して渡すようにすれば、各救急隊にプリンターは必要なく、予算はかからない。

補足 1 1 報道発表について

報 道 発 表 (集団救急)			
指 令 内 容	バスと普通車の交通事故。バス内に負傷者多数いるもの。普通車と歩行者が接触、1名負傷したものの。		
覚知時間	9時55分	指令時間	10時00分
住 所	〇〇区△駅前4丁目1番1号		
救急隊接触時間	10時05分	病院到着時間	搬送中
出動救急隊	6隊		
搬送医療機関	市内病院	2	施設
負 傷 者 情 報			
関係者数 (不搬送)	15名		
年 齢	20代	~	80代
男 性	8名	女 性	7名
性別不明	0名		
不搬送	0名	蘇生不可	1名
軽 症	1名		
中等症	7名		
重 症	4名	搬送済人数	

報道発表で必要な情報が集約されている。指揮隊員が情報収集することなく、事故概要を補足することで対応可能である。

補足 1 2 トリアージタグとの比較

(災害現場用) <訓練> 隊番号()

No.	氏名 (Name)	年齢 (Age)	性別 (Sex) 男 (M) 女 (F)
住 所 (Address)		電 話 (Phone)	
トリアージ実施日時・時刻 月 日 AM 時 分 PM 時 分		トリアージ実施者氏名	
搬送機関名	収容医療機関名		
トリアージ実施場所 現場 / 集積場所 / 救護所		トリアージ区分 O I II III	
トリアージ実施機関		医 術	
症状・傷病名		初診時傷病名	
特記事項		時刻 意識 JCS JCS 呼吸 SpO2 脈拍 血圧 その他	

二次トリアージ (PAT法) ※第2段階以上まで必ず行うこと ※いづれかに該当すれば I

第1段階：生理学的評価

<input type="checkbox"/> 意識 呼びかけ反応なし、不機嫌	<input type="checkbox"/> 瞳孔 瞳孔の相対的 変形
<input type="checkbox"/> JCS	<input type="checkbox"/> 唾液 鼻淵、唾液耳鼻
<input type="checkbox"/> 気道 舌根低下 気道閉塞	<input type="checkbox"/> 胸部皮下気腫 気管変形
<input type="checkbox"/> 呼吸 浅い 深い 速い 遅い 左右差 (動き 音) 失調性	<input type="checkbox"/> 鼻頭静脈の暗い怒張 気管開位
RR 回/分 SpO2 %	<input type="checkbox"/> 胸部皮下気腫 呼吸音左右差
<input type="checkbox"/> 循環 硬骨 弱い 速い 触知不可 蒼白 冷感 濡潤 活動性出血	<input type="checkbox"/> 胸部動脈 奇異性呼吸
HR 回/分 BP /	<input type="checkbox"/> 胸部より気泡聴じの出血
	<input type="checkbox"/> 腕部紫斑 腹部膨脹 腸管脱出
	<input type="checkbox"/> 骨盤動脈 圧痛 下肢長さ
	<input type="checkbox"/> 骨盤変形 出血 腫脹 圧痛
	<input type="checkbox"/> 四肢軟部組織剥脱
	<input type="checkbox"/> 骨髄の切断
	<input type="checkbox"/> 骨盤物挟まれ 下敷き ポートワゴン破
	<input type="checkbox"/> 骨盤部 体幹部 鼠径部への穿通性外傷
	<input type="checkbox"/> 顔面の瘀傷 鼻毛脱落
	<input type="checkbox"/> 災害弱者により 呼吸器の優付 嘔吐
	<input type="checkbox"/> 5%以上の熱傷を伴う外傷

※ 各シートの入力情報

- 現場救急
- 救護所救急
- 個人情報、バイタルなど任意事項は手書き
- 経過観察
- 搬送隊